

令和2年度第1回京田辺市総合教育会議 会議録（要旨）

1 開 会

事務局進行

2 市長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 議 事

（1）教育諸課題解決に向けた取組について

事務局説明

（委員） 先ほどあった教育諸課題解決に向けた教育委員等懇話会での品川先生の話において、5歳までの教育の大しさを訴えておられたのを聞いて、5歳までの教育をしっかりと取り組んでいかないと感じた。幼稚園、保育所と縦割り行政にならず、総合的な立場での推進をお願いする。

（市長） 京田辺市で年間600人出生があるが、行政的な切れ目で区分けするのではなく、一人一人の成長にずっと関わっていくという視点が大事。

（教育長） 社会の力、家庭の力、行政の力、地域の力を総合的に使っていかないといけない。懇話会の学びを踏まえ、次年度、教育委員会に諮問機関を設置して、そこで調査研究していただこうと考えている。

（市長） 教育サイドだけの問題ではないので、課題についてどんなアプローチがあるのか共通認識をして進めていきたいと考える。

（2）意見交換

・新型コロナウイルス感染症対策について

（市長） 前回の3か月休業期間について、本来はこういったことを決めるのに総合教育会議を開くべきという議論もあるが、総理の記者会見の翌日が代表質問だったため、緊急で教育長と協議した。今回の休業措置はいたしかたなかったという共通認識でよいか確認したいと考える。

（委員） 休業中の学習内容がきちんとできているのか保護者の心配もある。

（委員） 受験や部活動が将来につながる子どもたちの不安や、家庭の状況が変わったことの不安など、子どもたちが不安を常に抱えた状態であることに対して、行政や教育現場の対応が大事ではないかと

考える。

(市長) 大学のサークル活動もなく、人間関係が何もできなかつたことは、先々に影響があるのではないか。リモートの活用など発想の転換が必要になってくると考える。

・ G I G Aスクールについて

(委員) 懇話会で培良中学校の事例発表の際、G I G Aスクールで導入したタブレットを活用された。教員の使い方、どんなソフトかも大事ですが、子どもたちのメンタルへの影響について、タブレットによって話し合いが少なくなるのではないか。コミュニケーション力の課題を感じた。

(委員) 中学生からのタブレットは、小学校での読み書きの基礎があった上だが、小学校低学年では手先の細かなことが学べなくなる心配があるので、活用方法をしっかりと考えてもらいたいと考える。

(委員) 学校同士のつながり、交流ができれば良いのではないか。

(市長) タブレットはあくまでも補助ツールである。緊急事態宣言中にはリモートでの授業の要望もあるが、学校に通うといった集団生活を送ることでしか得られないものが必ずあると考えている。また、リモートによる学習では、学校間、家庭間の格差が生じる恐れがあるが、これは看過できないと考える。公教育としてこういう子どもを育てたいという思いを持って教育を行っている。G I G Aスクールになっても、コミュニケーション能力のところはきちんとおさえつつ、タブレットで子どもたちのつまずきを発見し、授業がわからない子どもをゼロにしたいと考える。

(教育長) 培良中学校では上手くツールとして使っていた。ロイロノートにも書かせて、そのロイロノートの写真を大型モニターで全員で共有でき、生徒達が前向きに取り組んでいた。準備の負担も少なく、先生の残業も発生しなかった。

・ 中学校給食について

(委員) 大多数の方が多いがたいと思っていると思う。いろんな家庭の方が居るので、子どもたちが栄養を摂れるように、また産地のものを使って食育もしていただければと考える。

(市長) 子どもたちは弁当が好きだが、親の立場ではいろんなものを食べてもらいたい気持ちがある。時期や場所やさまざまな制約がある中、理想はあるが、何を優先するかは、3中学が一斉に開始でき、早く提供できるかを一番の課題として進めてきた。

・ 幼保再編について

- (市長) 幼保無償化により、市立幼稚園の定員が厳しい状況にあること、園舎の老朽化、長時間保育の需要があることから再編を検討している。
- (委員) 京田辺市の幼稚園は地域毎にあって地域に守られ育てられているというのが大きな特色と思う。そういうまちづくりの土台を継承しながら、幼稚園・保育所の環境が良くなつていけば良いと思う。
- (委員) 先生がハッピーな職場であれば子どもたちもハッピーになる。ハッピーになるにはどうすれば良いか、働き方を考えなければならない。家庭内、地域内の助け合いでこういう状況を乗り切るべき。それを見て育った子どもには思いやりが生まれると思う。

5 閉会